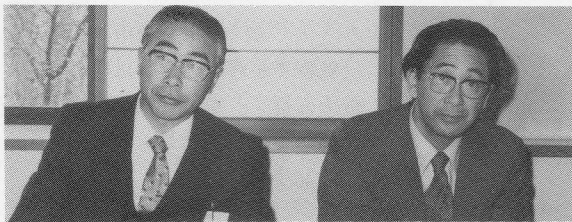
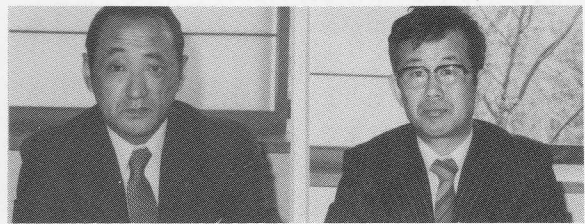




連盟を支える人

昭和57年度 北海道造形教育連盟委員総会
新旧委員長挨拶・地区委員・会議スナップ



目次	連盟のうごき…………… 2	実践校紹介…………… 7
	授業小論…………… 4	実践者紹介…………… 7
	人物往来…………… 6	水彩えのぐ—入門期—…… 8



北海道 造形教育 連盟報

発行 北海道造形教育連盟

事務局 〒001 札幌市北区北24条西7丁目

札幌市立白楊小学校 ☎721-4158

No. 66 1982. 7. 27 発行

連盟のうごき

新任の挨拶にかえて



北海道造形教育連盟

委員長 遠藤 久男

本年5月の地区委員総会で選出されましたが、会員のみなさんへの挨拶がおくれ、この紙面で述べます事は、誠に申しわけなく恐縮に存じております。

みなさんをご承知のように、歴代の委員長さんは実に立派な秀れた実践家で、連盟の運営や実践研究には強烈な情熱を傾けられて数々の成果を残されました。偉大な業績をもつ方々の後を受け継ぐのは本当に冷汗もので、年甲斐もなく今だ足が地に着かない状態です。しかし、引き受けた以上連盟が掲げる本道造形教育の振興を目ざして、最大限の努力を傾けたいと念じております。どうかご支援のほどお願い申し上げます。

連盟が先年30周年記念事業を終えました。30余年の歴史をもつということは、半世紀へ向けての大きな飛躍を意味するものであり、造形教育、その実践的研究の質が問われる時代に入ったものと考えられます。今まで全道一丸となって築きあげた歴史の伝統の上に、新しい時代への構想を確かなものにし、誤ることのない未来志向を再び論じ合いたいものであります。

幸いなことに、各地区サークルや連盟支部が着実な実践活動を重ね健在であります。この事は誠に心強い限りであり、本部の各部活動も地区活動と連携を図りながら、各地で地道な研究のもと貴重な実践的資料をお持ちの方々とも連携し、温い友情を通して組織強化を進めたいものであります。

子どものおかれている社会環境は、必ずしも望ましいとはいえません。しかしこれが現実であります。自から創り出す喜びは、子どもたちの心の叫びであり、この求めて止まない子どもの心に迫る造形教育。子どもと共に創り出す造形教育で、喜びのある豊かな表情を見取りたいものであります。会員のみなさんと共に造形教育の真実を求めて、たゆまぬ努力を重ねたいと決意しております。(札幌・藻岩北小校長)

役員紹介



副委員長 石塚 潔

室蘭生まれ。地区委員歴約20年。全道展会員。現在、室蘭市立喜門岱小学校長。



副委員長 一ノ戸信雄

上砂川生まれ。連盟創立当時から地区委員として参画。昭和40～42年空知教育研究所員。現在西長沼小学校長。



副委員長 加藤 正

第33回全道造形研留萌大会副大会長。51年より留萌地方美術教育研究会会長。沖見小学校長。



副委員長 種市誠次郎

札幌で生育。連盟発足より参画。能力表提案。道展会員。市工部顧問。道幼美副会長。札幌市立手稲鉄北小学校長。



副委員長 越田一喜

1923年、函館市に生れる。函館市美術教育研究会顧問。函館市立東川小学校長。



監査 川野上 彰

根室市出身。勤務校別海中央小学校長。連盟創設以来地区委員。別海町生涯教育研究所長。



監査 渡辺正勝

大泊生まれ、旭川で育つ。連盟地区委員1968年より。純生美術会々員。旭川末広小勤務。



事務局長 森川昭夫

夕張育ち。昭和51年より事務局長。グループ藻塑、瀝青会メンバー。白楊小学校長。

各部の紹介

北海道造形教育連盟

昭和24年4月、小中高大の美術教育にたずさわるもの35名で札幌美育教育連盟として発足した。その後、25年は北海道美術教育会、26年11月に北海道図画工作連盟と改称され、さらに昭和34年3月に北海道造形教育連盟と改称されて現在に至っている。

●目的は

本道造形教育の振興を図る。

●目的達成の事業として

- (1) 研究会、講演会、展示会の開催と後援。
- (2) 造形教育に関する教科書・教材・教具等の研究。
- (3) 機関紙「北海道造形教育」の刊行。
- (4) 他造形教育団体との連携。
- (5) その他造形教育振興上必要なこと。

以上の事項を行っている。

●組織

全道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属している。また、本部は札幌においている。

○会計部

連盟の文字どおり台所。会費や事業収入、寄附金などの収入。研究、事業等の支出を一手に引き受けている。

○庶務部

地方サークルとの連絡、各会員間の連絡、他造形団体との連携に後援団体との渉外、各種会議の招集など庶務の仕事を一手に引き受けている。会議の中で一番大きいのは全道支部から地区委員が集まる委員総会である。

○研究部

連盟の頭脳である。部長以下5名の者で構成されて

いる。主な仕事は

- (1) 研究主題の設定（57年度主題は創りだす心を呼び起す造形教育）
- (2) 研究主題にせまるための研究計画。
- (3) 全道造形教育研究大会の指導・助言。
- (4) 各種研究誌の発刊と募集。（研究紀要、指導の構築は第6集に達している）
- (5) 各種講習会、講演会の開催。
- (6) 各種講習会、研究会への講師派遣。
- (7) 支部サークルとの研究の連携。

などである。尚、全道造形教育研究大会は毎年全道各地で行われている。

○事業部

事業部の仕事の主なものは、

(1) 全道教育美術展

・毎年行われているもので、今回で第9回目を迎える。広く全道各地から絵画、版画、デザインの作品を募集している。対象は幼・小・中に在籍しているものならだれでも応募できる。メ切は12月20日。1月上旬に札幌東急デパートで展覧会を開いている。

(2) 全道立体造形展

・これも毎年行われている。今年は第7回展。対象は全道各地の小・中学生の立体作品。

函館・旭川・釧路・札幌で地方審査を行い、その中から優秀作品を集めて札幌で中央審査が行われている。地区審査は9月～10月、中央審査は10月下旬。展示会はヨークマツザカヤで開催。

(3) 各種審査会の審査（後援）

(4) 各種子ども絵画教室の後援等

○広報部

連盟報を年3回発行している。美術教育の理論や実践を紹介している。図工教師の連携をはかるため全道20地区に配布している。

連盟に入会する手続

全道の幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員で、本連盟の目的に賛同するものであればだれでも入会できる。

全道各地の支部、サークルに加入したい旨申込みばよい。年間会費500円。しかし、地区サークル費も一緒に納めることになっているので、詳細は地区支部に問い合わせしてほしい。

授業の創造

滝川市立滝川第二小学校 早 弓 弘 行



教育は「方法の時代」に入ったといわれる。いささか逆説めくが「方法が内容を決定する」という人さえる。

たしかに、私達教師が新しい方法を考えついたとき、次の授業は楽しみでならないものだ。いい指導を期待する教師の心のときめきが、子どもに伝わらぬはずはない。

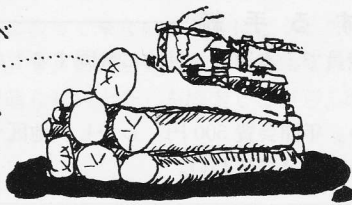
教材は、子どもにとっても教師にとっても、いつも新鮮で生き生きしていなければならない。昨年扱った題材であっても、教師は常に新しい解釈と工夫を加えなければならない。考えてみれば、先生って大変なものだなあといつつ……。

■ドレミの絵 (小学校中学年～高学年)

色の明るさや、あざやかさに変化をつけると、子どもの絵がぐんと良くなることがある。

木工場の 材木置き場

セカリロの色が単調だ。この部分に明度や彩度のちがいがほしい。



木材の切り口の明るさ・あざやかさを少しずつ変えると、絵にリズムが表われる。歌に音階があるように、絵にも「色階」がほしい。子どもには「この切り口にドレミをつけてちょうだい」でわかるのではないか。

どれがドでどれがレか、切り口をよく見させるとよい。これを「ドレミの絵」と名づけよう。

■6年生の大発見!!

子どもの小さな発見を見逃さず、再組織し、応用・発展させるのは教師の仕事である。



校舎増築工事のスライドを投影して、構成の学習をする。休憩時画用紙をもってスクリーンの前を横切った子の紙に、あざやかにスライドの一部分が映る。

「ああっ！」

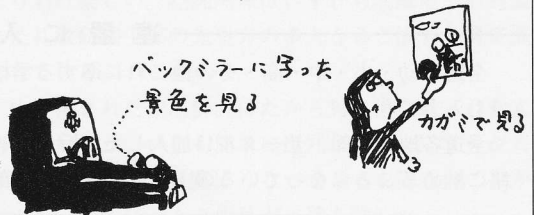
「ホントの絵みたいだァ。」

「きれいだァ。」

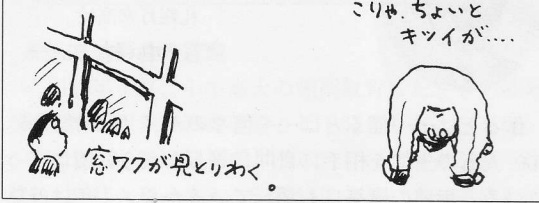
教室中がざわめいた。まったく偶然にもおもしろいことを見つけた。休憩のあと、画用紙に投影し、風景の切り方を学習する。子どもは、自分の発見した方法に大満足。

発見 …… 写して見ろ。

見られた風景も、オヤと思えばうな新鮮さがある。



発展 …… 見方を変えて見る。

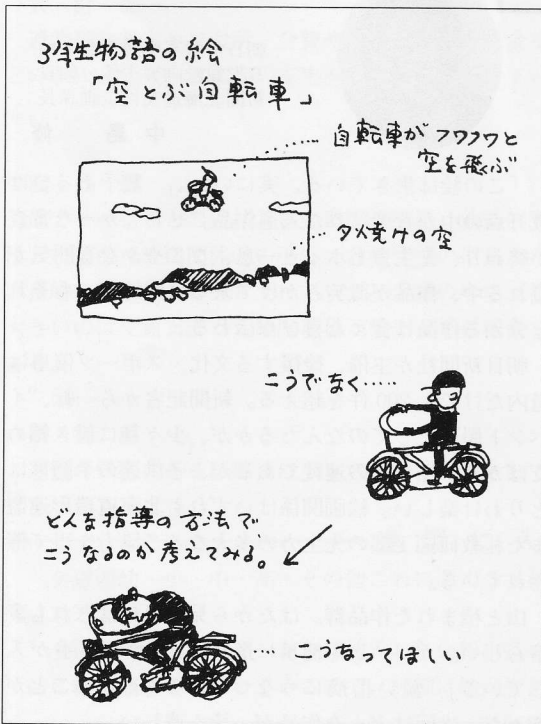


■話しかけてくる絵

絵は、描く子の心を限られた空間に投影させた
い。

物語絵などのとき、導入の「話しあい」が作品に反映されてないことが多い。子どもの絵を変えようとは、子どもそのものを変えていかなければいけないのに、どうでもいいようなやりとりだけの導入が一般化しかかっている。

短い時間を有効に使うためには、「こうなってほしい」という意図があらかじめあって、そのための「方法」を吟味し、実行可能なやり方を計画しなければならない。



■題名のくふう

“絵の題を考える”とは、絵の内容を考えることだ。「風景」というよりは「樹木のある風景」といった方が、より授業の意図がはつきりしてくる。

ある研修会で「ろうそくの火を吹き消す人」という題で彫塑を指導している先生がいてひどく感心したがこのように題を聞いただけで、先生の考えが子どもにもわかるのがよい。

できれば自校のカリキュラムをもう一度見直して、より郷土的に、自分の学校の子どもに合ったように具体化するのがよいのではないだろうか。

たとえば、秋の写生会ならこんなふうに…

- 樹木の間からみた団地風景
- 高学年 • 箱がたくさん積んであるけしき
- 学校の非常階段と夕暮れのけしき
- 大きなブルドーザーを見た。
- 低学年 • 風の強い日
- フェンスのうしろから見たやきゅう大会

早弓先生のこと

私が中空知でごやっ介になったのは30年から43年までです。より沢山の仲間に恵まれんきょうになりました。

この間、早弓先生の指導から生まれたこどもの絵はちょっと他と異なる魅力がありました。

こどもが実に楽しく描いている一生き生きした姿が、描かれた絵の中からみえてくるのでした。

この指導の秘密はどこにあるのか、知りたい、盗みたいと常々思ったものでした。

こどもの絵に対する早弓絵画論は、いつも新鮮であり、ユニークであって、ぴかっと光を放っています。きわめて柔軟でそれでいてこどもの生活感情がにじんででてきます。

それらは、このレポートにも垣間みることができですが既に幾年か前に請われて東京書籍から冊子となって出版されていますから、道内はおろか道外でもご覧になって我がものになさっておられる方も多いことでしょう。“空知子供の作品を語る会”の中心者として組織の上でも重鎮ですが、決して現役を退かない実践者としての若々しさはずっとずっと変らぬことだろうと思います。

(札幌・北辰中学校 東志 隆)



夢を大きくふくらませて

連盟顧問
小山田 武

退職してもう5年、現在釧路短期大学の幼児教育学課の講師、釧路成人学校の美術講師、文化教室の美術講師など、現職時代と変わらない多忙な毎日です。

退職してからの一番大きな仕事は、釧路市民会館の大ホール緞帳の原画を制作したこと。大ホール緞帳は横18メートル、縦8メートル、釧路の大湿原をテーマにして制作しました。

私の現職時代からの夢は、世界をかけ廻ってのスケッチ旅行ですが、今その夢を現実に生かしています。今迄の5回の外国旅行で、ヨーロッパ（フランス・イギリス・オランダ・イタリア・西ドイツ・スイス）、メキシコ、エジプト・ギリシャ、スペイン・ポルトガル・モロッコ、中国と出かけました。

これからも夢を大きくふくらませて、美術活動を進めていきたいと思います。

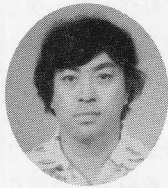


授業を相手に

札幌月寒高校
中村 矢一

作るとは……描くとは……何なのか！ 問い続ける。300人もの生徒を相手に自問自答しながら教壇に立っている。指導の構築にも示しているから、1年は静物2年は自画像の課題で授業が展開されるが生徒に与えられた時間は過ぎ、提出期日には間がある……クラブ員が放課後制作するのは解るが、一般生徒の制作で美術教室は満席、席のあくのを待つ一年生もいる。それが1週間以上続き……合評会に間にあわせるものである。2年の終りには彫金の制作をするのであるが、2年の授業展開は二クラスを芸術三科、音美書と別けるため1年より人数は少ないが、それでも30人位はいる。エスキースから始まって銅板に打ち込む金槌の音は想像を絶するものすごさである。誰一人落ちこぼれる者はない……ここに子供の本当の姿が……

人物 往来



留萌大会に向けて

留萌大会研究部長
留萌市立潮静小学校
佐々木 忠

じっくり落着いて物を見つめ、美しいものを美しいと感じる心。それを自己表現することのできる力をつけさせる教育。私達も創り出す仕事の喜びを味わいながら、しっかり物を見る目を養わなければならない。

教育はあなたまかせ、他人まかせではどうしようもない。生きている生身の目の前の子どもひとり一人と教師の個性がぶつかり合ってこそ、生きた授業、身についた授業が展開されるであろう。

常に生き生きと躍動的で楽しさのあふれた授業でありたい。わからない子どもにどうしたら分るように教えられるか。授業にのって来ない子どもにどうしたら熱中させられるか。今、第33回全道大会に向けて、管内の仲間達が「留萌らしい大会」を模索しながら、準備をすすめている。



楽しい絵に会える喜び

朝日学童写生会・雪まつり
児童絵画展主催・朝日新聞北海道支社企画課長
中島 修

「この絵は生きている、実にいい。」数千あるいは数万点の中から選ばれた入選作品。せわしかった審査が終わり、先生方もホッと一息、なごやかな雰囲気の流れの中、作品が微笑みかけて来る。門外漢にもそれと分かる作品に会えた喜びが伝わる。

朝日新聞社が主催、後援する文化・スポーツ催事は道内だけでも200件を超える。新聞記者から一転、「イベント屋」としてのなんたるかが、少々身に付き始めたばかり。厄介さの連続であるが、子供達の手助けはとりわけ楽しい。絵画関係はいずれも北海道造形連盟また札幌教研図工部の先生方の多大なるご協力を得て催されている。

山と積まれた作品群。はたから見る目にはどれも素晴らしい。が、いとも簡単に選外に。「大人の手が入っている」鋭い指摘にうなづかざるを得ないことが度々だ。次回はどんな作品が…待ち遠しい。

実践校紹介

マーガレット幼稚園

創立二十周年を終えた本園は、現在3年保育2クラスを含め8学級280名の定員で、設備も全国的にも数多くない本格的な体育館と図工室、音楽室、図書室、視聴覚室、コンピュータールームなどの特別教室を持ち、これらの施設を有効に活用して独特な幅の広い教育活動を行っている。

従来の幼稚園教育が、お絵かき、お歌、お遊ぎのこの三つを中心に行われている事に否定的であり、従って絵画領域の教育活動は他の幼稚園とくらべると時間的にも量的にもむしろ少ないと考える。特に絵を描く事についての直接的な指導はほとんどない。にもかかわらず、ここ20年来、NHK図画コンクール、STV図画コンクール等に多数の入選者を毎年だしており46・48年には、優秀学校賞を連続いただいている。50年に北海道教育美術展ができてから、ずっと参加しているが、これにも毎年安定した入選を続けている。

この事は全体の教育活動の中に、農園・器具体操・ミニ・バレー・はさみ将棋・乗物ごっこ等幼児が喜ん



で参加するだけでなく真剣に取り組む活動が多く含まれている事の影響が多いと思われる。勿論この領域の直接的な体験的活動としてとり上げている数多くの造形活動、フィンガーペインティング、デカル・コマニーちぎり絵、流し絵、浸し染、版画(絵、スチレン)吹き絵、砂絵、木の葉細工、色水あそびや、2日ないし3日間通して活動する木工あそび、分解あそび(時計や玩具)などの活動の結果である事はいうまでもない。

(文・園長・鈴木 亮)

実践者紹介

ひとりひとりの創造的表現力を 伸ばす造形教育を求めて

千葉 利子 先生 函館市立本通小学校

歴史的風土の街と自負する函館は、自然の美しさのみでなく幕末の国際港であった時代をしのばせるエキゾチックな建物も多く、絵の題材にこと欠かない。特に函館山麓の元町一帯には石だたみの坂道、白壁と赤や緑の尖塔を持つ教会、赤レンガ造りの洋館などがあり、港と共に写生会の場所となる。8月上旬の港祭りには絵画電車が行なわれ、各校から子どもたちが、参加して電車に絵を描くのである。

千葉先生は、そのような行事や立体造形展、木工展



などに積極的に指導を行い、表現の喜びを味わせると共に創造的表現力を伸ばす努力をされておられる。また、廊下の額に全校の子どもたちの作品の掲示を黙々としている姿にもファイトが伺われる。さらに全道造形研や全国研などにも多く参加し、研鑽を積んでおられる。そのような造形教育に対する熱意が、全国展や全道展の入選・入賞者を多く出している所以である。

(文・函館市美術教育研究会研究部長 山谷礼司)

来年は留萌に集まろう

第33回 全道造形教育研究大会・留萌大会

◎ 留萌テーマ

生活とふれ合い、創る心のひろがりを求める造形活動

◎ 会期 昭和58年7月27日(水)・28日(木)

◎ 会場校 留萌市立留萌小学校



会場校・留萌市立留萌小学校

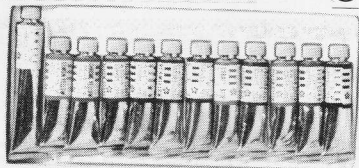
水彩えのぐ —使用入門期—

I

水彩えのぐを始めて子供が手にする時、胸をわくわくさせてまるで宝物のようにそうっとあけておそるおそる絵の具のチューブをさわっている。筆をしずかに水に入れている姿、私はすばらしい光景として印象深い。この大切な絵の具の使用入門期に適切な指導がいかに重要かは論をまたないであろう。



● サクラマット水
彩12色(MW12)
500円



なんといっても絵の具と水との関係からなりそして筆という物を使ってぬるという二つの意義を持っている。それには、子供自身の技量の問題、机上で絵をかく作業のしやすさの問題、などがありこれらの点がうまく相かみあって絵の具の楽しさがあると考えます。

II

画 筆 ○筆の持つ部分と持ち方(真中よりやや

上の方で、かるくにぎる。)

○筆の太さ・彩色のスペースに応じて
(大中小、三本位が理想的)

パレット ○溶き加減を広く調節することのできる
機能的な物、後始末の簡単にできる物。
水彩えのぐと水加減

○水との使い方あまり高度な技術の必要な絵の具は不向きであり多少の水加減でも自由にかくことができればよい。

III

以上紙面上の都合で、どうしても書ききれないが、いざにしても良い条件整備をしてやることから始めるのが大切であり、あまりうるさくそれ水がこぼれる、床がきたなくなることを気にして指導することは、絵の具のおもしろさ、たのしさを味わうことができないであろう。
(文・札幌・新琴似緑小 花田正雄)



(友だち) 新琴似緑小3年 西村克彦



株式会社 **サクラクレパス** 札幌営業所

札幌市中央区南4条西13丁目

〒064 TEL (563) 5161(代)

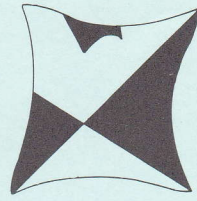
あとがき

第32回全道造形教育研究大会・室蘭大会にあわせて編集しました。大会参加者全員に配られます。原稿をお寄せくださった先生方に深く感謝いたします。

吉田俊雄(西野小)・富田 泰(南月寒小)・村谷利一(札苗中)・東志 隆(北辰中)

伊藤英世(新琴似緑小)

発行に寄せて

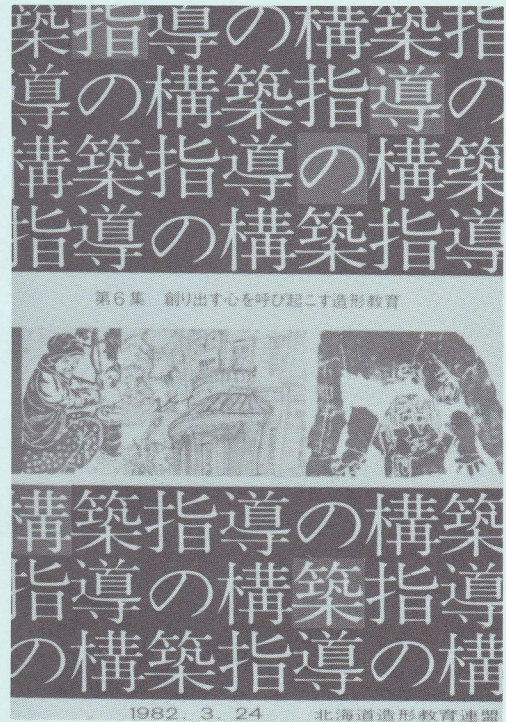


北海道造形教育連盟

No. 66 号外

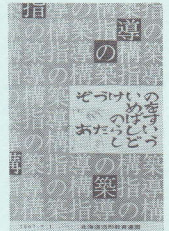
研究紀要第六集 「指導の構築」 発行によせて

北海道造形教育連盟 研究部長 船着昭弘

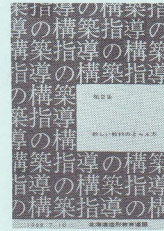


指導の構築、第6集

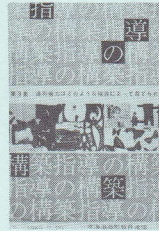
本日、研究紀要第六集「指導の構築」を室蘭大会の参加者みなさんにお渡しすることができました。これも当連盟に対するみなさんの深いご理解とご協力の賜と深く感謝申し上げます。この紀要にある「学習内容の系統表」「造形学習能力表」は、まる2年間で、実践的検証を積み重ねて改訂し、一九八〇年に発表しましたものです。これらがなお一層充実したものとなるよう願っておりますが、今回は特に、「造形学習能力表」の検証のために、全道各地の実践者からその研究的実践の例を頂き集約しました。幼小中高の各学年、各領域を網羅できるように努力いたしました。幼小中高の各学年、各領域を網羅できるように努力いたしました。しかし、能力表と実践例を対比して見られるよう、その編集に工夫いたしましたので、能力表の点検・検証をすすめて頂ければ幸いです。多くのの方々からのご意見ご指導を頂ければ幸いです。



第 1 集



第 2 集



第 3 集



第 4 集



第 5 集

学習能力表試案は授業作成に当って、誰にでも即利用され活用でき配慮事項が細かく出ている事は、永年にわたる研修部の成果が伺われます。この成果が全道の仲間の日常実践の核になることを信じます。指導の事例は全道各地の実践者のレポートだけに、子どもの立場を考えた細やかな授業への目が熱く感じられます。どの事例をとってみても、直接活用できる内容であり、全道の仲間が多いに研修を進めるより所にするでしょう。

釧路市立白樺台小学校 西 弘 治

子どもをとりまく社会環境の変転に着目し、「学習者の時代」といわれる教育志向の中にあつて、子どもの声が聞こえる造形教育をねがい、学習内容の系統表と造形能力体系表が改訂されたことは大きな意義をもつといえる。

能力のとらえ方として、発想、計画と技術に分け、構成能力を造形秩序と造形要素に分けて学年の発達に応じた目標とつなげているが、各能力のおさえや、秩序や要素の分け方等、現場の実践による検証によって今後更に深めたり改めたりする必要がある。

厚沢部町立厚沢部小学校 三 浦 敏 勝

まさに、第六集のタイトルにふさわしい内容であり、何よりも手にした者にとっては、幼から高まで、現場の実践家によって、授業をとおしてまとめられた記録ということで、たいへん身近かに感じられると思います。造形教育に関心の深い先生方は勿論のこと、広く幼稚園や小学校の先生方も、容易に入手できる方策を講じてあげたら、喜ばれるのではないでしょう。

根室・別海中央小学校 川野上 彰

“指導の構築”第六集は、造形能力体系表、造形学習能力表が新指導要領を基盤とし新鮮なものに改訂されており、また実践例では、子どもの実態をとらえ図工、美術の授業展開が「見えるしあわせ、感じる喜び」「かける」「つくれる」「使える」……という子ども達の喜びを感じることができるのである。特に今回思うのであるが、これからは小中の連けいを密にした実践研究をしていかねばと思うのだが、図工、美術の教育は、幼・小・中それぞれの段階で芽が出て花が咲くはずであるし是非ともよい芽を育て色々な花を咲かせたいものである。そのための土壌を私共は用意し子ども達一人ひとりの個性に気づかせ、うるおいのある生活をさせたいと願っている。

苫小牧市立光洋中学校 片 桐 勉